



OCFC NEWS

2025年5月1日号

Vol. 77

大川こども＆内科クリニック

OCFCニュース復活します

OCFCニュースは今年度から医療情報、クリニックニュースを満載して再発行いたします。

2025年度診療体制 医師紹介 アレルギー専門医 大柴医師就任

クリニックの開設以来、月に2回診察されていましたアレルギー専門医、指導医の大柴晃洋医師が昨年4月から水曜日、金曜日、第2・4土曜日に診療しています。アレルギー性鼻炎や花粉症などアレルギー疾患に対しての経口免疫療法を行っています。アトピー性皮膚炎、食物アレルギーも専門領域です。2023年度まで武蔵野日赤病院の小児科部長として活躍されていた方です。とても温和で優しく、わかり易い説明には定評があります。

副院長の佐々木章人医師は小児科専門医であり水曜日を除き、外来診療の中心として活躍中です。データに基づく診療と説明は好評を博しています。専門は小児循環器ですが、感染症をはじめ小児医療全般に最先端の知識を持っています。経口免疫療法も行っています。野上由貴医師は小児血液腫瘍の専門医ですが、女性医師でもあり思春期の女性患者さんにはとても人気があります。月曜日から木曜日の午前中の診療を行っています。院長の大川洋二医師は病児保育室を中心に診察していますが、ほとんどの診察日にはクリニックに

いますので診察を希望の方は事務までお申し出ください。(月に1回程度木曜日・金曜日休診することがあります。) 院長のじっくり外来では10分程度から診察内容によっては1時間程度の時間をとって診察をしております。小児の発達や登校に関するお悩み、感染を繰り返す子供の悩み、夜尿症、起立性調整障害についてゆっくり相談を受けています。特に夜尿症の治療では今まで1,000人以上、起立性調整障害の治療でも300人以上の治療歴があります。またがん患者さんや免疫不全患者さんの長期フォローアップ、セカンドオピニオンについても相談を受けています。

今年度の非常勤医師は木曜日午後に交代で神谷尚宏医師、友政弾医師が担当します。詳しくはHPの外来担当表を参考にされてください。土曜日、日曜日、祝日は常勤医と東京科学大学からの医師の2診察体制で行っています。

クリニック内にてかかりつけ医を見つけてください。混雑時を除き医師の指名を承ります。

OCFC INFORMATION

感染症だより

最近の感染症は季節性の特徴がなくなってきました。ここでは代表的な感染症について概説します。

●新型コロナウイルス SARS-CoV2感染症

2020年1月から国内で発症した新型コロナウイルス、SARS-CoV2感染症は徐々に流行を拡大し、2020年11月からの第3波となる大きな流行につながり、その後2021年から春、夏、秋、年末と流行の波が大きくなりました。同年2月から開始されたワクチン接種や、多くの方が患したことによる社会的免疫力が向上するにつれて流行の波は4月、7月、8月、11月から1月の年3回おこり、大流行がみられました。2024年後半から流行の波は小さくなり、このまま行けば5番目の通年性のコロナウイルスとなりそうです。1月から4月までの診断数は週平均10名程度、1日に0人から3人の発症となっています。

●インフルエンザ

2024/2025年のインフルエンザAの発症は例年よりも早く、9月から増加し、11月後半から大流行となり、12月に診断者は963人とピークを迎えました。1月は412人に診断しましたが、2月以降減少し、年間の診断数は1546人でした。B型の発症は少く3月に23人を診断し年間発症数は54人でした。A型の流行はH1pdm型でH3香港型は少なかったです。来年はAH3とBビクトリア系統の流行リスクとなります。今年度のインフルエンザワクチン接種者は不活化ワクチンで5532人(フリーワクチン:1360人)生ワクチンが130人でした。感染予防効果は生ワクチン(フルミスト)が優れ、重症化予防は不活化ワクチンが優れています。

●感染性胃腸炎

嘔吐下痢を主症状とする感染性胃腸炎は本来1月から5月ごろまでの春先に多い疾患です。しかし昨年度は6月まで流行し減少はしたものの発症は継続し、9月から再流行がありました。年が明けて2月3月はそれぞれ388人、381人と激増し、4月も流行が継続しています。下痢を起こすウイルスはロタウイルスが有名ですが、ワクチン接種の普及とともに減少し、ノロウイルスを主力とするRNAウイルス群が中心となっています。いずれもエンベロープを持たないウイルスでアルコール消毒が無効です。汚染されたものは廃棄、または塩素系の消毒が必要です。85℃以上1分間の加熱消毒も有効です。汚染された床、汚染物を清掃した雑巾やモップ類も消毒をしてください。消毒しませんとウイルスが空気中に浮遊します。防ぐには手洗い

に加え、マスクの着用も役に立ちます。

●溶連菌感染症とマイコプラズマ感染症

溶連菌感染症も今年は大流行となっています。4月から8月は例年発症が多い時期ですが、月に100人以上の発症で5月には154人を診断し年間で930人診断しました。1~2か月おきに感染する場合は家族内で溶連菌が潜伏している、または他の細菌との重複感染の可能性があります。治療はペニシリン系抗生剤で10日間、登園(校)禁止は抗生剤開始後1日間、治療後の検尿が標準です。ペニシリン系の抗生剤がない場合はセフェム系の抗生剤を5日から7日間程度内服します。

マイコプラズマ感染症は9月から12月まで大流行し12月には115人に診断、年間で589人に診断しています。長引く発熱、頑固な咳嗽が特徴です。確定診断されず、治療薬を行わなくとも3~4週間で症状は治りますが、その場合は周囲の方に感染し、流行が拡大します。診断は咽頭拭い液による抗原検査または採血しての抗体検査となります。診断確定後はマクロライド系の抗生剤を処方しますが一般的に小児で飲みにくい薬剤です。苦くて服用できないことが多いので、クリニックにて内服のお手伝いをしています。

●RSウイルスとヒトメタニューモウイルス感染症

乳児に感染すると呼吸困難など重い症状が出現するウイルス性疾患にRSウイルスとヒトメタニューモウイルスがあります。特に前者の感染が0歳児に起りますと半数近くが入院する可能性があります。2歳以上の幼児、成人では症状がほとんどなく、知らず乳児に感染させてしまうこともあります。RSウイルス感染症は夏にから冬にかけて患者さんは増え、季節変動は少なくなっています。呼吸困難の程度によってはステロイドの内服が必要です。低出生体重、心臓や肺にハンデキャップがある方には2歳までRSウイルスへの抗体(パリビズマブ:シナジス)を投与して発症を防ぎます。ヒトメタニューモウイルスも中国で大流行のようですが日本でも現在小流行があります。

●その他の感染症

夏には手足口病は658人、ヘルパンギーナは232人と大流行し感染期間も長引いています。また伝染性紅斑も流行が長引き、例年の10倍、185人を診断しています。ここにも新型コロナウイルスの大流行による流行の変化のためか12月まで発症が確認されています。麻疹、風疹の発症はありません。水痘は年間42人、おたふくは16人です。伝染性紅斑18人でした。

新しいワクチン、 勧めたいワクチン

ここ1~2年で国内のワクチン事情がすっかり変わりました。新しいワクチンとして新型コロナワクチンはすでに定着していると思います。ここではOCFCで推薦しているワクチンを紹介します。

MRワクチン 麻疹は今年も輸入感染症として3月末までに50人程度発症しています。東京都でも10人発症しています。また風疹も妊婦さんが罹ると胎児に先天性風疹症候群を発症することがあります。MRワクチンはその両者に対するワクチンですが2回接種しても10年程度で抗体はなくなります。16歳以降の方で罹患歴がない方はMRワクチンを接種してください。東南アジア等に旅行する方には必須のワクチンです。

DTaPワクチン 百日咳が大流行のようです。3月末までに国内で5652人に発症しています。2か月までの乳児がかかると死に至る可能性があります。3種混合ワクチンは現在4種または5種ワクチン(DPT+IPV+HiB)として乳児期3回1歳児1回の4回接種が行われています。しかし百日咳抗体価は6歳ごろまでに低下して感染のリスクがあります。日本小児科学会では入学前に三種混合ワクチンを勧めています。また11歳から12歳で接種が行われる2期にもDTにかえてDPTを勧めています。また乳児や同居者を守るために高校生から成人の方へのDPTも必要です。DPTでは接種部位の腫脹が危惧されますので百日咳菌の一部を抗原としたDTaPがお勧めです。

子育て支援

OCFCの子育て支援には病児保育室うさぎのママ、未就学児療育施設うさぎの学校、すぐく外来及び乳児健診があります。

病児保育室うさぎのママ

病児保育室うさぎのママは2003年発足以来22年目となります。2024年度は2814名のご利用でした。お預かりは感冒などの上気道炎から学校感染症にて2種に分類される疾患に罹患した病児を預かっています。インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、水痘などに罹患した方は別の入り口から施設に入室していただき、陰圧、ヘパフィルターを使用している空気清浄機を配備した隔離室にてお預かりします。他の病児との接触は全くありません。定員に余裕があるときはゆとり保育を行っています。ゆとり保育とは子育てに悩むお母さんと一緒に母子入室や、医療的ケア児、発達に特徴がある児の受け入れも行います。

RSVワクチン RSVは前述のように0歳児では呼吸困難など重症化し入院あるいは生命の危機があります。予防にはワクチンが有効ですが2か月未満でのワクチン接種ができません。そこで妊娠24週から36週の妊婦さんに予防接種を行い、母親にできた抗体は臍帯を通じて胎児に移行して受動免疫を行います。その結果生後6か月位までの乳児のRSV感染を防ぐ、あるいは重症化を予防することができます。

またこのワクチンは60歳以上の高齢者の感染予防、重症化予防にも役立ちます。

水痘帯状疱疹ワクチン 水痘ワクチンは1歳児に2回接種が推奨されているワクチンです。水痘に罹患すると成人期以降特に高齢者になって帯状疱疹を発症します。治療が遅れると痛みが長期に継続します。帯状疱疹予防に特化した不活化ワクチンにはシングリックスがあり18歳以上から接種は可能です。2回接種となります。従来の水痘ワクチンも可能です。50歳以上の区民には大田区から助成金ができます。

髄膜炎菌ワクチン このワクチンは日本では任意接種ですが、欧米では定期接種になっており接種が奨励あるいは義務化されています。2歳以上の方に1回接種します。米国などにホームステイや留学するときに接種を求められることもあります。

ダニ媒介性脳炎ワクチン これから屋外活動が増えます。草原や森林での活動ではマダニにかまれる可能性があります。特に中国、ロシア、欧州、国内では北海道で活動する方には推奨されています。

未就学児療育施設うさぎの学校

未就学児で発達に凸凹があり、どのように子育てをしたらよいのか難しい児に対して療育を行っています。東京都及び大田区から認可された施設です。心理士3名、言語聴覚士2名での対応を行っています。個人療育及び2~4人の集団療育です。発達障害を疑われていれば、明確な診断名がない児に対しても療育を行っています。火曜日から土曜日まで開校しています。

学童以降はクリニックでのすぐく外来にてカウンセリングを行っています。医療的観点からは当院児童精神科にて診察投薬を行うこともあります。

乳児定期健診(6~7か月、9~12か月)ではスポットビジョンによる斜視の検査、1歳以降の幼児検診、特に5歳児検診では聴力検査、発達の検査を行っています。気がかりな点があればご相談ください。児童精神科専門医の診察も受けられます。

外来診療担当表 (2025年度)

乳健：乳児健診
予接：予防接種
ア：アレルギー疾患
慢：慢性疾患

木曜日：午後
第2・3・5週 友政彈
第1・4週 神谷尚宏
土曜日：午前午後
第1週 真柄達也
第2・5週 梶原道子
第3週 山野晴樹
神経外来：山内泰輔
内分泌外来：鈴木友梨
内科：水沼喜章

曜日	8:30~12:00	14:00~16:00	16:00~18:00
月	小児科・内科(副院長・野上)	乳健・予接・ア・慢(副院長・院長)	小児科・内科(副院長・院長)
火	小児科・内科(副院長・野上)	乳健・予接・ア・慢(院長・副院長)	小児科・内科(副院長・院長) 発達外来(下平先生) 第2火
水	小児科(大柴・野上) 内科・循環器(水沼)	乳健・予接・ア・慢(院長・大柴)	小児科・内科(院長・大柴)
木	小児科・内科(副院長・野上) 発達外来(関戸先生) 9:00~12:30、14:00~18:00 発達外来(小澤先生) 第4木12:00~15:00	乳健・予接・ア・慢(大学・副院長) 発達外来(小澤先生) 第4木12:00~15:00	小児科・内科(副院長・大学)
金	小児科(副院長・大柴)	乳健・予接・ア・慢(副院長・大柴)	小児科(副院長・大柴)
土	8:30~12:00	13:00~14:00	14:00~15:00
	小児科・内科 (院長・副院長・大柴・梶原・大学)	乳健・予接・ア・慢 (院長・副院長・大柴・梶原・大学)	小児科・内科 (院長・副院長・大柴・梶原・大学)
	第1土 神経外来(山内)	午後 神経外来(山内)	
	第2土 アレルギー(大柴)	午後 アレルギー外来(大柴)	
	第3土 内分泌(鈴木)	すぐすぐ相談室 第1・2・3・4・5土(幸本・深嶋)、第1・2・4土(白川)	
日・祝祭日	9:00~12:00 (休日診療)	小児科・内科・予接	

■電話予約サービスコード一覧 電話予約：03-3758-0099

科目	サービスコード	科目	サービスコード	種類	サービスコード	種類	サービスコード	科目	サービスコード	種類	サービスコード
小児科一般	11#	予防接種	15#	5種混合	11#	小児MRワクチン	21#	予防接種	15#	DT	28#
内科一般	12#			小児肺炎球菌	15#	おたふく・水痘	22#			シガード(女性のみ)	34#
アレルギー/慢性疾患	13#			ロタウイルス	17#	水痘	23#	インフルエンザ ワクチン	21#	成人MRワクチン	41#
乳児検診	16#			B型肝炎ワクチン	18#	おたふく	24#			保存剤あり	11#
花粉症外来	25#			BCG	19#	日本脳炎ワクチン	25#			保存剤なし	12#

*ご予約の際は、サービスコードを入力してください。予防接種はサブサービスコードの入力もお願ひいたします。

*その他のサービスコード：ご予約確認「20#」・ご予約の取り消し「30#」・空き状況の確認「40#」

◎インターネットでご予約の場合はQRコードのご利用、または当院ホームページの右上部【インターネット予約】よりお願ひいたします。



院内設備・機器紹介

院内設備:隔離感染症室、電話自動予約機(24時間対応)、電子カルテ、空気清浄装置(臓器移植にも対応できる)(4台)、オゾン空気清浄・防臭装置(3台)、電解水発生装置、消毒用専用スライサー、院外呼び出しコール、ソーラ発電および大型蓄電池
検査機器:レントゲン装置、デジタルX線画像診断システムFCR CAPSULA自動解析装置付心電計、血球分析器、CRP/ASO測定機、検尿器、電子スパイロメーター、血糖測定器、経皮酸素分圧モニター、パルスオキシメーター2001、聴力検査機器、心電図モニター、超音波踵骨測定装置、A-100EXPRESS、スポットビジョンスクリーナー、ID Now(SARS-CoV2遺伝子増幅機器)、OD検査用自動血圧計
救命装置:自動体外式除細動装置(AED)ライフパックCR PULS

医療法人社団 オー・シー・エフ・シー(OCFC)会



小児科・内科・アレルギー科 (併設 病児保育室 うさぎのママ)

院長 大川 洋二

診療時間:月～金 午前 8:30~12:00 午後 2:00~6:00
土 午前 8:30~12:00 午後 1:00~3:00
日曜・祝日 午前 9:00~12:00 (駐車場8台)

予約専用 03-3758-0099 代表番号 03-3758-0920

E-mail: info@ocfc.jp URL: http://www.ocfc.jp

うさぎのママ お問い合わせ

直通電話 03-3758-0066 E-mail: usagimama@ocfc.jp

案内図



東京都大田区多摩川1-6-16
東急多摩川線矢口渡駅前